

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171200302		
法人名	特定非営利活動法人ソーシャル・ネットワーク		
事業所名	グループホームぬくもりの里かも		
所在地	岐阜県美濃加茂市加茂野町鷹之巣2239番地		
自己評価作成日	令和6年8月6日	評価結果市町村受理日	令和7年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2171200302-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人といの会の会
所在地	岐阜県大垣市橘町1丁目3番地
訪問調査日	令和6年12月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設ではグループホームではめずらしいリフト浴を導入しており、自力での入浴が困難な方でも安楽・安全な入浴が可能です。職員の入浴介助による業務負担の軽減にもつながっています。感染症予防対策として、オゾン発生器や空気清浄機を各棟に配置しております。また、各棟に簡易陰圧装置を導入していたことで、新型コロナウイルス感染発生時には、早期の段階で居室隔離することが可能となり、施設内での蔓延防止をすることができた。季節ごとの行事やイベントに力を入れており、定期的に行われる誕生日会はその都度、レクリエーションの内容を変え、同じにならないよう工夫している。運営推進会議にて地域のイベント等の情報収集した際は、感染状況などを検討したうえで、可能な限り参加し、外出の機会と共に外部の方々と触れ合う機会を設けている。今年は恵那峡への日帰り旅行を行った。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人ひとりのペースに合わせ、ゆったりと穏やかに過ごすケアを提供している。遅い時間に朝食を食べる、夜間眠れない時はTVを見る、誕生日や正月に希望する嗜好品を提供する等で個々に合わせた支援をしている。洗濯、掃除、食事、買い物、野菜作り等でそれぞれの役割を担い、生きがいや認知症の進行予防にもつなげている。散歩時や地域イベントで住民との会話、認知症カフェや認知症当事者の方の集いでの交流、楽器演奏や踊り等でボランティアとの交流等で他者との触れあいや関わる機会を多くしている。社労士との労使会議での意見交換、リフト浴やICTを導入し業務の効率化を図り働きやすい職場にしている。行事や作品づくりに趣向を凝らし利用者が楽しんでもらえる工夫をしている。地域とも良好な関係を築き、開放された明るさと気持ちよい笑顔に満ちた事業所である。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月2回のカンファレンスにて、法人理念や介護理念を唱和し、理念の共有をしている。また、「おだやかに、ゆっくりと」をモットーに掲げ常に意識し職員間で声をかけあい介助を行っている。	日々のケアに意識づけできるように、玄関に理念を掲示している。月2回のミーティングで唱和している。理念を念頭にゆとりをもって介助するように心掛けている。気になるときは、お互いに声を掛け合い、理念に沿うケアを心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加や地域ボランティアの受け入れをしている。	地域イベント、認知症カフェや認知症の方の集いに参加している。散歩に出掛け野菜や花をもらっている。ギターや二胡の演奏、フラダンス、日舞等のボランティア、中学生や特別支援学校の職場体験を受け入れている。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	夜間に運営推進会議を開催しており、大半の方にご参加いただいている。ご意見やご要望を受け、当施設への取り組みに活かしている。また、会議内容もご家族様への毎月のお手紙と一緒に同封し報告している。	メンバーが参加しやすい夜間に会議を開いている。事業所のイベント予定や活動報告等をし、地域行事の情報や感染症予防対策の助言をもらい、参加したり参考にしたりしている。認知症サポーター養成講座の情報や会議録は家族に送付している。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、情報交換を行っている。また、日頃から、定期的に連絡を取り合っており、相談なども気軽に行える関係性を築いている。	電話での相談等もあるが、様々な問い合わせ、書類提出や情報提供はメールが多くなっている。市主催の会議や法改正についての解釈はズームで研修を受講している。県や市の補助金等の補助事業の相談をしてリフト浴を導入している。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会の定期的な開催と施設内外での研修を実施し、全ての職員に周知し身体拘束しないケアを常に確認し合い実践している。	身体拘束等の適正化のための指針を定め、3ヶ月毎に委員会を開催し年2回の研修を行っている。門扉は閉めて、玄関は開放し中庭等に出られるようにしている。夕方になると帰宅願望の人があり、話を聞いたり好きな事等で気分転換出来るようにしている。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についても、施設内外にて研修を実施し周知することで、全ての職員が虐待防止についての共通の認識を持っている。	虐待防止のための指針を定め、3ヶ月毎に虐待防止のための対策を検討する委員会を開催し、研修も実施している。虐待の芽チェックリストで振り返りと集計をしている。言葉遣いやスピーチロックには常に注意し、尊厳に配慮した声かけに努めている。		

グループホームぬくもりの里かもの

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しては外部研修にて学んでいる。学んだことを活用できるよう支援していきたい。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用者やその家族の方に対して、十分な説明を行い、疑問点や不安なことなど時間をかけて理解していただけるよう努めている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びにに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の訪問時等の際に、ご意見やご要望などをお聞きしている。頂いたご意見等はすぐに検討し対応させていただいている。	コロナ禍ではオンライン面会としていたが、現在は居室での面会にしている。面会時や電話連絡時に家族の意見や要望を聞いている。毎月日頃の様子を記した手紙やイベントの写真を送付し、家族から意見をもらいやすくしている。家族から要望があれば対応している。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員代表を選出し、労使会議にて意見や提案を聞く機会を作り話し合っている。	月2回のミーティングや日頃の業務内に不足物品や使いづらい等の意見があり、その都度確認し対応している。毎月の壁面飾りの作品はレクリエーション担当者が提案し、職員で検討し利用者と一緒に作成している。孫の世話の為祖父母休暇の要望がある。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	管理職や職員の個々の実績や努力、勤務状況などを把握し、それを基に考課表により問題点をあげ各自が向上心が持てるように職場環境や条件の整備に努め楽しくやりがいを持って働けるようにしている。夜間手当の増額を行った。	体調や家庭事情に合わせ勤務時間や夜勤等、希望休を入れたシフトにしている。インフルエンザ予防接種の半額補助、食費の補助、資格取得者に資格手当を支給している。休憩室に茶菓子を準備し月刊デイの雑誌を定期購入し、ストレスを軽くし働きやすい職場にしている。	
12	(10)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理職や職員に対して外部研修、施設内研修を行っている。また、資格取得については積極的にスキルアップを図れるよう支援制度を設けバックアップしている。	事業所内研修は年間計画を立てて、スキルアップ出来るようにしている。職種や経験に応じて外部研修を奨励し、受講費を出して出勤扱いで参加している。資格取得希望の研修は勤務への配慮をし助成金の活用を勧めている。	

グループホームぬくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で同業者との交流は思うように行えていないが、他施設との交流の機会があれば情報交換を行い、サービス向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	配膳や洗い物、洗濯干しやたたむ等、以前からされていた事を通じて、レクリエーションや物づくり等を一緒に行う時間を設け、関わりを持つようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様との会話から趣味や特技を把握し、意向に沿った支援を行えるよう努めている。	その人に合わせた声の大きさと、ジェスチャーも交えて、ゆっくりと思いや意向を聞いている。何を食べたいか何をしたいかを聞き、運動したい人には体操を取り入れ、編み物を希望する人にかぎ針や毛糸を準備している。正月や誕生日に酒等を飲む人もいる。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	可能な限りご家族様同席での担当者会議の開催を心掛けているが、困難な場合はお電話にて確認させていただき、介護計画を作成している。	本人や家族の希望を事前に聞き、医師や看護師の意見も入れて介護計画を作成している。半年毎にモニタリングを行い、担当者会議を経て見直している。ミーティングで全利用者の状態を確認し、必要時は見直している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別で介護記録に記入し職員間で情報共有し、より良いケアに努めている。	業務日誌、個別の介護記録、申し送りはIPADで入力している。12月1日からICT導入したが移行中で申し送りノートも併用し閲覧後はサインし、朝夕の申し送り時に口頭でも伝達し情報が周知できるようにしている。緊急時はグループラインを使っている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者・家族の要望について柔軟な支援をするように努めています。変化があれば変更し、報告するよう努めています。	緊急時の病院受診は職員が同行し、受診に至る経緯や状態を伝えている。家族が必要物品を持参できない時は買い物代行をしている。TVに映ったり広告に掲載されている食べ物やおやつを希望される時は柔軟に対応している。	

グループホームぬくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設避難訓練の際に地域の方にも参加していただけるように自治会への働きかけを行っている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医、協力医はご本人様やご家族様の意向に合わせている。他科受診はご家族様に依頼することでご本人様の状態等をご家族様と共有し連携に努めている。	入居時に本人や家族の希望で全員が協力医に変更している。他科受診時は家族が同行し受診しているが、日頃の様子を記した書面を渡し、受診後に口頭で報告を受けている。受診時の医師から返信される事もある。協力医とは24時間連携できる体制である。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には安心して治療が受けられるようにご家族様や病院と良好な関係が保てるように努めている。病院の相談員との連携を図り関係作りを行っている。	入院時は病院にサマリーを提供している。病院の相談員や家族から随時情報を聞きながら、今後の方向性を提案している。家族の意向を確認しながら他施設や医療機関の紹介もしている。事業所に戻る場合は状態を確認しサマリーをもらっている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の重度化に伴い、その都度、医師やご家族様、看護師などと話し合いながら対応し、看取りケアを行っています。救急対応は消防署や看護師による指導にて職員全員研修を受けております。	本人の状態変化に合わせて職員が家族に説明している。摂取量が低下時は医師の指示で栄養剤やゼリー飲料を補給している。その都度家族に意向を確認し希望時は看取りをしている。点滴や酸素投与も希望に応じ家族の宿泊も可としている。看取りプランで方針を統一し対応している。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は利用者の急変時や応急手当などの初期対応の講習を定期的に行い、実践力を身に付けるよう努めている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜の火災を想定した避難訓練を定期的に行っています。地震を想定した避難訓練も実施している。近隣の地域の方との連絡網を作成し、地域との協力体制が図られている。災害時の避難場所としての受け入れを受託している。	地震、火災、夜間想定を含めて年4回の避難訓練を実施し、振り返りもしている。BCPを策定し水や米等を備蓄している。災害時の避難場所として市と協定を締結し受託している。地域お助け協力隊を掲示し自治会に呼びかけているが、訓練時に住民の協力が得られていない。	地域との組織体制もあり良好な関係であり、様々な機会に住民に協力してもらえるように働きかけを期待したい。

グループホームぬくもりの里かもの

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮し、トイレ前や居室入り口にカーテンを設置し外から見えにくいよう配慮している。人生の先輩として尊重し言葉かけや対応をしています。	利用者の尊厳に配慮した言葉遣いや接し方に注意している。居室やトイレ入口にカーテンと扉を設置し、視界が遮られるようプライバシーに配慮し対応している。外部での接遇研修やプライバシー研修は、資料を閲覧しミーティングで報告し意識づけている。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の色々な場面で自己決定ができるよう支援している。			
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にできる限り希望の沿った支援をしています。			
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月、献立表を立て誕生日や行事に合わせて、メニューを変更しています。行事食と一緒に作ったり、配膳を一緒に行ったり、楽しみをもっといただけるよう工夫をしています。	頂いた野菜や季節の食材で管理栄養士が献立を立てている。誕生日には赤飯やちらし寿司、テイクアウトのカツ丼、寿司、弁当、バイキング形式、中庭で食事と楽しめるようにしている。カップケーキやプリンにトッピング、下膳や食器拭き等を手伝ってもらっている。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスや水分補給は毎食後に摂取量を記入し、個々の栄養管理に努めている。体重測定は月1回行い目安としています。			
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っています。ケア困難な方や不十分な方は介助させていただき口腔衛生に努めています。	日に3回口腔ケアをその人に合わせ見守りや介助している。夜間預かりの義歯は除菌管理している。頬の引き締め体操、アイウベ体操、パタカラ体操等で誤嚥防止に努めている。全員年1回の口腔検診、歯科医や歯科衛生士の処置や指導は希望で受けている。		

グループホームぬくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄チェック表から利用者様の排泄パターンを把握し、できる限りトイレにて排泄できるよう支援している。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	リフト浴の導入により、立位困難になった方でも安心安楽に入浴を楽しんで頂いている。また、入浴順を決めず、その日の体調や気分に応じて入浴していただけるよう努めている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の体調を考え、午前と午後に休憩時間を設けています。足背や下肢に浮腫がある方には足挙上にて改善に努めています。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の介護記録に薬の説明書が綴っており、薬のことが一目でわかるようになっています。服薬時には名前や日付などを利用者様と一緒に声出し確認をし、誤薬のないよう細心の注意を払っています。	服薬時に本人の目で名前、日付、朝昼夕を呼び上げ、手や器に載せる又は口に入れて飲み込みを確認している。空き袋は所定の袋に一旦保管しテーブルに並べて飲み忘れを確認後に廃棄している。直前に錠剤を粉碎したり水ゼリー使用の人もいる。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人それぞれにあった役割を見つけ支援を行っています。外出などで気分転換を図っています。農業経験のある方と一緒に中庭にて野菜の苗植えを行った。	洗濯物のハンガー掛けや畳み、掃除掛けや床拭き、下膳・食器拭きや副食の盛り付け、中庭の草取りや水やり、口腔体操の号令掛け等の役割を担ってもらっている。編み物、麻雀、トランプ、オセロ、将棋や数字カード等で利用者が楽しめるよう支援している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出掛けるなど戸外にでる機会を作っています。中庭にておやつを食べたり、写真撮影をしたりしている。また、ご家族様の協力のもと、散歩に出掛けられたり、喫茶店等に外出されることもあります。	車イスの人も恵那方面へ日帰り旅行に出掛けている。散歩、週1回の買い物、地域イベント、認知症カフェや認知症当事者の方の集い、道の駅や花見に外出している。中庭でお茶を飲んだり野菜を栽培したりして外気に触れる機会をつくっている。家族の協力で散歩や喫茶店に行く人もいる。	

グループホームぬくもりの里かもの

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、入所されている方でお金を所持されている方がいない為、支援していません。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様やお友達の方との電話をお取次ぎさせていただいている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには利用者様が共同作業で作成した当月の作品を掲示し、廊下にはその他の月の作品が飾れており季節感を表現しています。写真も多く張り、会話のきっかけになるようにしている。	リビングや廊下に月毎に利用者と共に作成した壁画を掲示して、季節感を出している。行事の写真の貼り、会話のきっかけづくりにしている。毎年、ぬくもり神社として鳥居、おみくじや賽銭箱を準備し初詣気分になっている。オゾン発生機、空気清浄機を設置し、換気や消毒もし感染症予防にも気をつけている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには2人掛けと3人掛けのソファが置かれ、寛ぎの空間となっています。廊下のベンチは憩いの場となっております。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の希望で、TVや筆筒などの調度品を置いています。居室にはご家族様との写真やご本人の作品等を掲示しています。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設全体がバリアフリーになっておりトイレ、廊下には手すりが設置されていて、安全・安心して自由に自立した生活が出来るようになっています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171200302		
法人名	特定非営利活動法人ソーシャル・ネットワーク		
事業所名	グループホームぬくもりの里かも		
所在地	岐阜県美濃加茂市加茂野町鷹之巣2239番地		
自己評価作成日	令和6年8月6日	評価結果市町村受理日	令和7年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2171200302-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市橘町1丁目3番地
訪問調査日	令和6年9月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月2回のカンファレンスにて、法人理念や介護理念を唱和し、理念の共有をしている。また、「おだやかに、ゆっくりと」をモットーに掲げ常に意識し職員間で声をかけあい介助を行っている。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加や地域ボランティアの受け入れをしている。			
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	夜間に運営推進会議を開催しており、大半の方にご参加いただいている。ご意見やご要望等を受け、当施設への取り組みに活かしている。また、会議内容もご家族様への毎月のお手紙と一緒に同封し報告している。			
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、情報交換を行っている。また、日頃から、定期的に連絡を取り合っており、相談なども気軽に行える関係性を築いている。			
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会の定期的な開催と施設内外での研修を実施し、全ての職員に周知し身体拘束しないケアを常に確認し合い実践している。			
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についても、施設内外にて研修を実施し周知することで、全ての職員が虐待防止についての共通の認識を持っている。			

グループホームぬくもりの里かもの

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しては外部研修にて学んでいる。学んだことを活用できるよう支援していきたい。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用者やその家族の方に対して、十分な説明を行い、疑問点や不安なことなど時間をかけて理解していただけるよう努めている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の訪問時等の際に、ご意見やご要望などをお聞きしている。頂いたご意見等はすぐに検討し対応させていただいている。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員代表を選出し、労使会議にて意見や提案を聞く機会を作り話し合っている。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	管理職や職員の個々の実績や努力、勤務状況などを把握し、それを基に考課表により問題点をあげ各自が向上心が持てるように職場環境や条件の整備に努め楽しくやりがいを持って働けるようにしている。夜間手当の増額を行った。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理職や職員に対して外部研修、施設内研修を行っている。また、資格取得については積極的にスキルアップを図れるよう支援制度を設けバックアップしている。		

グループホームぬくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で同業者との交流は思うように行えていないが、他施設との交流の機会があれば情報交換を行い、サービス向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯干しやたたむ等、それぞれ出来る事を提供し、職員と一緒にしている。レクリエーションや物づくり等を一緒に行う時間を設け、関わりを持つようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様との会話から趣味や特技を把握し、意向に沿った支援を行えるよう努めている。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	可能な限りご家族様同席での担当者会議の開催を心掛けているが、困難な場合はお電話にて確認させていただき、介護計画を作成している。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別で介護記録に記入し職員間で情報共有し、より良いケアに努めている。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者・家族の要望について柔軟な支援をするように努めています。変化があれば変更し、報告するよう努めています。		

グループホームぬくもりの里かもの

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設避難訓練の際に地域の方にも参加していただけるように自治会への働きかけを行っている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医、協力医はご本人様やご家族様の意向に合わせている。他科受診はご家族様に依頼することでご本人様の状態等をご家族様と共有し連携に努めている。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には安心して治療が受けられるようにご家族様や病院と良好な関係が保てるように努めている。病院の相談員との連携を図り関係作りを行っている。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の重度化に伴い、その都度、医師やご家族様、看護師などと話し合いながら対応し、看取りケアを行っています。救急対応は消防署や看護師による指導にて職員全員研修を受けております。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は利用者の急変時や応急手当などの初期対応の講習を定期的に行い、実践力を身に付けるよう努めている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜の火災を想定した避難訓練を定期的に行っています。地震を想定した避難訓練も実施している。近隣の地域の方との連絡網を作成し、地域との協力体制が図られている。災害時の避難場所としての受け入れを受託している。		

グループホームぬくもりの里かもの

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮し、トイレ前や居室入り口にカーテンを設置し外から見えにくいよう配慮している。人生の先輩として尊重し言葉かけや対応をしています。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の色々な場面で自己決定ができるよう支援している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にできる限り希望の沿った支援をしています。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月、献立表を立て誕生日や行事に合わせて、メニューを変更しています。行事食と一緒に作ったり、配膳を一緒に行ったり、楽しみをもていただけるよう工夫をしています。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスや水分補給は毎食後に摂取量を記入し、個々の栄養管理に努めている。体重測定は月1回行い目安としています。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っています。ケア困難な方や不十分な方は介助させていただき口腔衛生に努めています。		

グループホームぬくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄チェック表から利用者様の排泄パターンを把握し、できる限りトイレにて排泄できるよう支援している。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	リフト浴の導入により、立位困難になった方でも安心安楽に入浴を楽しんで頂いている。また、入浴順を決めず、その日の体調や気分に応じて入浴していただけるよう努めている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の体調を考え、午前と午後に休憩時間を設けています。足背や下肢に浮腫がある方には足挙上にて改善に努めています。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の介護記録に薬の説明書が綴っており、薬のことが一目でわかるようになっています。服薬時には名前や日付などを利用者様と一緒に声出し確認をし、誤薬のないよう細心の注意を払っています。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者それぞれにあった役割を見つけられるよう支援を行っている。外食に出掛けたり、地域へのイベントに参加したりと気分転換を図っている。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出掛けるなど戸外にでる機会を作っています。中庭にておやつを食べたり、写真撮影をしたりしている。		

グループホームぬくもりの里かもの

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、入所されている方でお金を所持されている方がいない為、支援していません。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様やお友達の方との電話をお取次ぎさせていただいたり、耳の遠い方にはご家族様にお手紙を書いていただくなどの支援を行っている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには利用者様が共同作業で作成した当月の作品を掲示し、廊下にはその他の月の作品が飾れており季節感を表現しています。写真も多く張り、会話のきっかけになるようにしている。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファが置かれ、寛ぎの空間となっています。廊下のベンチは憩いの場となっております。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の希望で、TVや筆筒などの調度品を置いています。居室にはご家族様との写真やご本人の作品等を掲示しています。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設全体がバリアフリーになっておりトイレ、廊下には手すりが設置されていて、安全・安心して自由に自立した生活がおくれるようになっています。		